

4. 境町における学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方

(1) 適正（望ましい）と考える学校規模（学級数）の考え方

学校規模の現状のとおり、境町においては、国が示す学校規模の標準（12学級～18学級）の範囲に7校中2校しか入っていないという実態があるため、境町としての適正な規模について考える必要があります。国の手引や県の方針、アンケート結果等を参考にし、境町として適正と考える学校規模（学級数）を次のとおりとします。

小学校の場合、12学級以上の学校規模があれば、全学年でクラス替えができる、同学年に複数教員を配置できることから、複数学級以上が適正（望ましい）と考えます。

中学校の場合、9学級以上の学校規模があれば、全学年でクラス替えができる、同学年に複数教員配置や免許外指導の解消が可能であること、さらには部活動で一定の数が確保できることから、3学級以上が適正（望ましい）と考えます。しかし、適正な学校規模を確保することが難しい場合は、最低限確保したい学校規模として少なくとも2学級以上が必要と考えます。

境町における適正（望ましい）と考える学校規模（学級数）

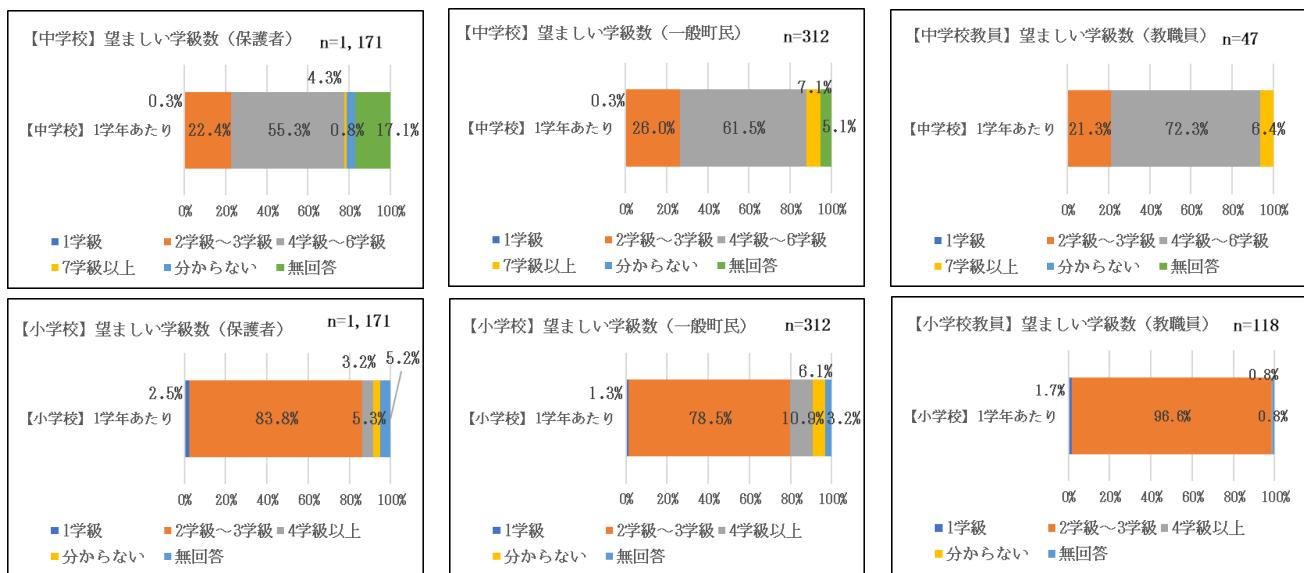
○小学校 学年2学級以上（全校12学級以上）

○中学校 学年3学級以上（全校9学級以上）

※3学級確保できない場合は、少なくとも学年2学級以上（全校6学級以上）が必要である

（参考）境町学校の規模・配置等に関するアンケート調査結果（抜粋）

【小・中学校の1学年当たりの望ましい学級数】



アンケート結果（保護者・一般町民・教職員）によると、1学年あたりの望ましい学級数について、全ての属性において、小学校では「2学級～3学級」、中学校では「4学級～6学級」が最も多く、国が示す標準学級数と同様になっています。また、中学校においては「2学級～3学級」が望ましいと回答した割合が、2割程度であることも確認できます。

(2) 適正（望ましい）と考える学校の適正配置（通学条件）の考え方

国の示す基準によると、小中学校ともに、どの学校からも通学距離の基準の中に複数の学校が配置されており、本町では比較的近い距離に学校が配置されている状況です。適正規模を図るうえで、仮に隣接する学校との通学区域の見直しや学校統合等をする場合でも、国の示す基準の範囲に1校配置される状況であることから、学校の規模の適正化を図るうえでの通学距離については、国の示す基準が望ましいと考えます。

また、アンケート結果においては、通学許容範囲について、小中学校ともに「30分以内」と回答した方が多くなっています。現状、一部の小学校で2km以上の児童は、スクールバスを利用してい る状況であります。

これらを踏まえ、本町として、適正（望ましい）と考える学校の適正配置（通学条件）を次のとおりとします。

適正（望ましい）と考える学校の適正配置（通学条件）

○通学距離 小学校：4km以内 中学校：6km以内

○通学時間 小学校：おおむね30分以内（歩行でおおむね2km以内）

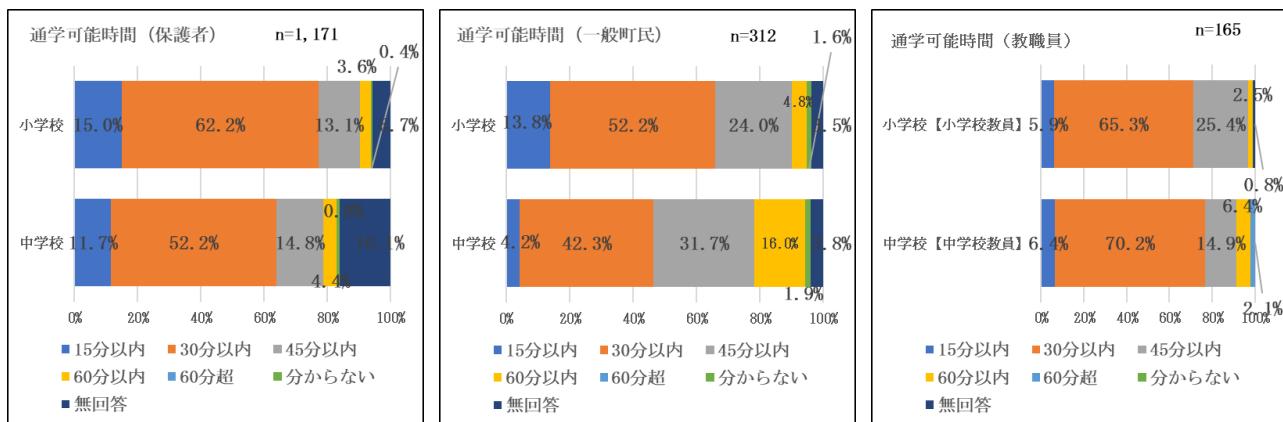
中学校：おおむね30分以内（自転車でおおむね4km以内）

【留意事項】

○小中学校ともに、おおむね30分を超える場合は、通学手段（歩行・自転車・スクールバス等）の対策を検討する必要がある

（参考）境町学校の規模・配置等に関するアンケート調査結果（抜粋）

【小・中学校の通学時間】



アンケート結果（保護者・一般町民・教職員）によると、通学時間の許容範囲については、全ての属性において小中学校ともに「30分以内」が最も多くなっています。